

家畜衛生だより

置賜家畜保健衛生所
置賜家畜衛生指導協会
〒999-2232 南陽市三間通 444
TEL/FAX 0238-43-3217/5249

R4-16 令和4年6月発行

暑熱対策をしっかりと行いましょう！

今年の夏の気温は、平年並みか、高くなる予報となっています。

暑熱対策をしっかりと行い、今年も夏を乗り切りましょう！

牛が快適に過ごせる温度は、**乳牛で5～20℃、肉牛で5～25℃**といわれています。

暑熱時には乳量の減少、増体・繁殖成績の悪化、死廃率の上昇等がおこります。

《環境対策》

○ 熱をさえぎる

- ・ 屋根に散水または石灰塗布
- ・ 屋根・壁・床への断熱材の設置
- ・ ひさし、遮光ネット、グリーンカーテンの設置



○ 熱を逃がす

- ・ 窓の開け閉め、換気扇や送風機を回す
- ・ 牛の体に散水、毛がりを行う
- ・ 密飼いを避ける

屋根への石灰塗布で
屋根裏温度が約 15℃ 低下
舎内温度が約 5℃ 低下
したという報告があります



グリーンカーテンの設置



換気扇、送風機の稼働



屋根への石灰塗布

《飼養管理》

○ 栄養管理

- ・ 食塩、重曹、ビタミン、ミネラルの補給
- ・ 冷たく新鮮な水をいつでも飲めるようにする
- ・ 涼しい時間帯での飼料給与
- ・ 飼料の劣化・腐敗に注意する

牛の暑熱対策のポイント

☆乳牛で 25℃以上、肉牛で 30℃以上になると要注意！

- ・ 泌乳牛、特に高泌乳牛は乾乳牛に比べて、より多くの熱が体内で発生されるので熱射病になりやすくなります。
- ・ 密飼い、分娩前後、肥満、基礎疾患があるとおもい熱射病を起こしやすくなります。

➡ これらのハイリスク牛は、涼しい場所へ移動しておきましょう！

☆熱中症の症状と対処

主な症状

- ・ 飼料の食込み量の低下（残飼の増加）
- ・ 目の充血、ひどいよだれ、あらい呼吸
- ・ 高体温（40℃以上）



症状がみられたときの対処

- ・ 獣医師の診察を受ける
- ・ 四肢から胸へと徐々に水をかける
- ・ 送風して体を冷やす



暑熱の影響は秋以降まで続きます

大切な家畜の夏バテ防止のために、再確認してみませんか？

家畜に異常を認めた時には、家畜保健衛生所までご一報ください

0238-43-3217

080-1840-0705

上記電話番号で24時間対応しています！